九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日中の新聞コラムにおけるタイトルの特徴について

単，艾婷

https://doi.org/10.15017/1543672

出版情報：地球社会統合科学研究. 3, pp.27-32, 2015-09-25. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

『地球社会統合科学研究』3号 27～32
Integrated Sciences for Global Society Studies
No.3，pp. 27～32

日中の新聞コラムにおけるタイトルの特徴について

単（タン）　艾婷（アイテイ）

1．はじめに

本稿は、日中対照研究の立場から、新聞コラムにおけるタイトルの特徴を分析しようとするものである。新聞のタイトルは「記事の最も的確で簡潔な要約で、読者に本文を理解してもらう『鍵』となるべきもの」（馬場・植条 1988:70）であり、「情報伝達性と経済性という２つの特徴がある」（Soler 2007）。つまり新聞コラムのタイトルは、読者を本文へ引きつけ、読み進めやすくする役割を果たしていると言える。また新聞紙面の制限のため、タイトルはできるだけ短く、簡潔な表現に要約したものでなければならない。そこで、日中両言語の新聞コラムにおけるタイトルの特徴について、構成と内容の両面から分析し、その相違点を考察する。

2．先行研究の概観

本節では、新聞コラムのタイトルに関する先行研究を３点概観し問題点を指摘する。

まずメイナード（2004）は、新聞コラムのタイトルが要旨文との関係を探るため、コラムのタイトルを（1）命令形、（2）助詞を伴う名詞句、（3）名詞文の３つのパターンに分類し、本文中のどこに要旨が出てくるかを調べた。タイトルはいずれも書き手がこうして欲しい、こうするべきだ、という提言を簡単にまとめたものであり、要旨を言い換えたものと考えられると述べている。

郭（1995）は、中国語と英語の新聞タイトルを形式、内容及び言葉の特徴から分析し、中英の異同を説明した。まず形式について、中英の新聞タイトルは共にprimers title、main title、subtitle[1]を使うことが多い。内容については、次のように述べた。

> 中文标题内容侧重“全体性”，它力求全面完整地概括新闻内容。英语标题一般采取“重点化”的办法，即用最简练的语言表达新闻中最重要的内容，以吸引读者注意力。
>
> 中国の新聞タイトルは「全体性」を重視し、全面的に新聞記事の内容をまとめようとしている。一方英語の新聞タイトルは「重点化」を重んじ、簡潔な言葉で記事の最も重要なことを表現する。[2]

また言葉の特徴に関して、省略、略語、記号の使用、修辞法の使用などから比較した結果、英語の新聞タイトルはただ記事の事実をそのまま簡潔にまとめたものであるのに対して、中国の新聞タイトルは比喩、対句、擬人などの修辞法が多く使われ、美しく聞こえると述べている。

李（2008）は、新聞社説の見出しの機能を「話題提示」「主張表明」「その他」の３種類に分類し、その分類に基づいて本文における見出しの反復を調査した。３つの機能をそれぞれ以下のように定義している。

> ①「主張表明」とは、取り上げられた事柄に対する書き手の意見が明確に示されているもの。
> ②「話題提示」とは、取り上げられた事柄に対する書き手の意見が明確に示されていないもので、これから述べる事柄についての事実を述べたもの。
> ③「その他」とは、見出しの機能が「主張表明」にも「話題提示」にも成り得る場合。
>
> （李 2008:66）

タイトルと本文の関係については管見の限り多く研究されているが、タイトルそのものに関する研究は少ない。また、日中の新聞コラムにおけるタイトルについての対照研究はほぼ見当たらない。そこで本稿は、新聞コラムをデータとして、日中両言語のタイトルの構成及び内容の特徴を分析し、その相違点を考察する。

3．データと研究方法

本稿で分析するのは、『朝日新聞』の「天声人語」[3]と『北京晩報』の「燕山夜話」[4]という２つのコラムである。「天声人語」は2013年４月から８月までの149本、「燕山夜話」

は『燕山夜話　合集』(1979) の149本を用いた。メイナード(2004)が分けた(1)命令形、(2)助詞を伴う名詞句、(3)名詞文の３つのタイトルのパターン、及び『中国語教学（教育・学習）文法事典』(2008) を参考に、本稿ではタイトルをまず①「句」と②「文」の２種類に大別し、それぞれの下位分類として①a.名詞句、b.動詞句、c.前置詞句・助詞を伴う名詞句、②a.陳述文、b.疑問文、c.命令文をおく。この分類に従って、タイトルの特徴を構成と内容の両面から分析する。

4.　分析

4．1　タイトルの構成について

4．1．1 「天声人語」のタイトル[5]の構成

「天声人語」の2013年４月から８月までの149本を、３節の分類に従って分析した。その結果は表１の通りである。

表１　「天声人語」のタイトルの構成

①句	a.名詞句	103(69.13%)
	b.動詞句	12(8.05%)
	c.助詞を伴う名詞句	13(8.72%)
②文	a.陳述文	14(9.40%)
	b.疑問文	7(4.70%)
	c.命令文	0(0.00%)

具体例は次の通りである。

①句	a.名詞句	淡路島を揺らした地震（2013.4.14）
		ネット情報の怖さ（2013.4.17）
		世界遺産になる富士山（2013.5.2）
		英語教育見直し論議（2013.6.1）
		消えていく方言（2013.6.2）
		自民重鎮の憲法観（2013.6.4）
		時間とのつきあい方（2013.6.5）
		ウナギの危機（2013.6.6）
		沖縄の「慰霊の日」(2013.6.23)
		与那国島の平和の詩（2013.6.25）
		梅雨明けのビール（2013.7.10）
		マララさんの国連演説（2013.7.15）
	b.動詞句	憲法の「肝」を考える（2013.4.7）
		立憲主義を再確認する（2013.4.28）
		「主権回復」の日に思う（2013.4.29）
		通天閣にぎわう（2013.5.20）
		アフリカ諸国と歩む（2013.6.3）
		赤塚マンガで憲法を知る(2013.6.12)
		無責任体質に呆れる（2013.6.14）
		言葉の海を泳ぐ（2013.7.1）
		ブータン政権交代に思う(2013.7.16)
		憲法にアートで触れる（2013.7.20）
		広島を新たに表現する（2013.8.6）
		死者の声を聞く（2013.8.7）
	c.助詞を伴う名詞句	花はなくても（2013.4.8）
		橋本徹氏の憲法観は（2013.4.11）
		「あはれ」から「やばい」へ(2013.5.13)
		政治家の資質とは（2013.5.19）
		女性手帳、立ち消えに（2013.5.29）
		ネット選挙、解禁へ（2013.6.15）
		狂った兵器を用済みに（2013.8.10）
②文	a.陳述文	人口減少に特効薬なし（2013.4.19）
		春が暮れゆく（2013.4.20）
		テロは市民の自由を奪う(2013.4.21)
		「歩きスマホ」が怖い（2013.5.25）
		株価の急落続く（2013.5.28）
		なだいなださん、逝く（2013.6.11）
		「特捜の顔」が逝去（2013.6.29）
		吉田昌郎さん亡くなる（2013.7.11）
		ネット選挙、道半ば（2013.7.17）
		投票所が早く閉まる（2013.7.19）
		キング牧師の夢はいま（2013.8.28）
		イプシロン打ち上げ中止(2013.8.29)
	b.疑問文	独裁はなぜ続くのか（2013.4.13）
		「暴走老人」は政治家か（2013.4.18）
		損得を超えたもの？（2013.5.5）
		野党敗北の先は？（2013.7.23）
		「ゲン」が読めない？（2013.8.18）
		「ガラパゴス国会」？（2013.8.25）
		コーヒーは天使か悪魔か(2013.8.27)

4．1．2 「燕山夜話」のタイトルの構成

３節の分類に従って、『燕山夜話』の第１集～５集の合計149本の分析も行った。結果は以下の表２の通りである。

表２　「燕山夜話」のタイトルの構成

①句	a.名詞句	85(57.05%)
	b.動詞句	26(17.45%)
	c.前置詞句	7(4.70%)
②文	a.陳述文	10(6.71%)
	b.疑問文	15(10.07%)
	c.命令文	6(4.03%)

「燕山夜話」の原文のタイトルは毎日新聞社が訳した。しかしそれらは意訳が多く、日本人が受け入れやすく加工されている。したがって、原文のタイトルを筆者が直訳したものも示す。具体例は次の通りである。

		原文のタイトル	毎日新聞社訳	直訳
①句	a.名詞句	生命的三分之一(1)[6]	夜の余暇を有効に	生命の三分の一
		不要秘诀的秘诀(1)	×[7]	秘訣の要らない秘訣
		“一无所有”的“艺术”(1)	西欧文化の退廃ぶり	「無の芸術」
		一个鸡蛋的家当(1)	拾った卵を女房につぶされた男	卵一つの財産
		一把小钥匙(2)	資料研究の手がかり	一つの小さな鍵
		握手与作揖	握手は不潔	握手とお辞儀
		“三十六计”(5)	三十六計逃げるにしかず[8]	
	b.動詞句	欢迎“杂家[9]”(1)	得がたい雑家の知識	「雑家」を歓迎する
		少少许胜多多许(1)	文章は要領よく簡潔に	「少し」は「たくさん」に勝る
		珍爱幼小的心灵(1)	幼児の心を大切に	
		说志气(1)	×	意気込みを語る
		堵塞不如开导(1)	父のあだを討った治水の王さま	塞ぎは導きにしかず
		谈谈养狗(5)	孔子さまも賞味した犬の肉	犬飼について語る
	c.前置詞句	由慧深[10]的国籍说起(2)	×	慧深の国籍から語る
		向徐光启[11]学习(4)	農業の神様・徐光啓	徐光啓から学ぶ
		从红模字写起(4)	×	習字の手本から練習する
		为李三才[12]辩护(5)	歴史のやぶにらみ	李三才のための弁護
②文	a.陳述文	金龟子身上有黄金(3)	コガネムシの体には黄金がある	
		读书也要讲“姿势”(4)	ねて本が読めた曹操	読書でも、姿勢を重んずる
		行行出圣人(5)	百姓と床屋と板前	どんな職業にもその道の第一人者が現れる
		古迹要鉴别(5)	迷信の史跡か？観光の名所か？	史跡には鑑定が必要である
		鸽子就叫做鸽子(5)	×	鳩は鳩そのものと呼ばれる
	b.疑問文	错在“目不识丁”吗？(3)	成句にも誤りがある	「無学」のせいか
		你赞成用笔名吗？(3)	ペンネームの使用、大いに結構	ペンネームの使用に、賛成か
		茄子能成大树吗？(4)	×	なすは大きな木になれるか
		这是不是好现象(4)	×	これは良い現象か
		知识是可吃的吗？(4)	知識はたべられるか	
	c.命令文	不要空喊读书(2)	×	「読書」を口先ではなく実行すべき
		多学少评(2)	笑われて笑った王安石	多く学び、他人への批判は控えろ
		不要滥用号码(4)	数字であらわした姓名	番号を濫用するな
		多养蚕(4)	×	蚕をたくさん飼おう
		有书赶快读(4)	書物を持っているなら早く読め	
		编一套“特技”丛书吧(4)	名人芸のかずかず	「特技」についての書物を編もう

4．1．3　タイトルの構成の比較

２つのコラムを比較すると、以下の表３のようになる。

表３　「天声人語」と「燕山夜話」のタイトルの構成

タイトル		天声人語	燕山夜話
①句	a.名詞句	103（69.13%）	85（57.05%）
	b.動詞句	12（8.05%）	26（17.45%）
	c.助詞を伴う名詞句・前置詞句	13（8.72%）	7（4.70%）
②文	a.陳述文	14（9.40%）	10（6.71%）
	b.疑問文	7（4.70%）	15（10.07%）
	c.命令文	0（0.00%）	6（4.03%）

表３から分かるように、「天声人語」のタイトルの句は名詞句が最も多く、文は陳述文と疑問文が見られる。一方の「燕山夜話」は、タイトルの句は名詞句も最も多く、文は疑問文、陳述文、命令文の順番である。つまり、「天声人語」と「燕山夜話」のともに、名詞句が最も多いことが分かる。「天声人語」は７割ほど、「燕山夜話」は６割弱である。また、「天声人語」には命令文が見られないのに対して、「燕山夜話」ではわずかだが見られる。日中ともに名詞句が多いのは、名詞句を使うことで簡潔な話題提示を目指しているのではないだろうか。「燕山夜話」にわずかの命令文が見られたのは、執筆者がこれから書く内容をそのまま提示したうえで、書き手の意見

も明確に示していることが考えられる。

4．2　タイトルの内容についての考察

タイトルの内容面から見ると、「天声人語」は非常に具体的であり、読み手がこれから書く内容を予測する重要な手掛かりとなっている。例えば以下の例を検討してみよう。

師弟２人の国民栄誉賞	(2013.4.3)	「歩きスマホ」が怖い	(2013.5.25)
橋本徹氏の憲法観は	(2013.4.11)	英語教育見直し論議	(2013.6.1)
淡路島を揺らした地震	(2013.4.14)	子どもの貧困対策法	(2013.6.20)
立憲主義を再確認する	(2013.4.28)	マララさんの国連演説	(2013.7.15)
世界遺産になる富士山	(2013.5.2)	開業130年の上野駅	(2013.7.30)

上で挙げたタイトルの例は、いずれも具体的である。例えば「英語教育見直し論議」というタイトルによって、書き手がこれから英語教育見直しについて執筆することを容易に知ることができる。しかし、英語教育をどのように見直すのか、具体的な内容は先を読まないと分からない。また「マララさんの国連演説」は、書き手がこれからマララさんの国連演説について執筆することが分かる。しかし、演説の内容や執筆者の意見などについては先を読まないと分からない。つまり「天声人語」のタイトルは、読み手が執筆者のこれから書く内容をある程度予測し読み進めることができる形式が多い。

一方「燕山夜話」は、抽象的な言葉遣いや比喩の表現を多用することで、読者の興味を引きつけるという手法を取っている。「燕山夜話」のタイトルの総数149本のうち70本が毎日新聞社により訳されたものである。その70本のうち11本（15.71%）は直訳であるが、59本（84.29%）は文章の内容に合わせて意訳されたものである。つまり８割強は、タイトルを見てもほぼ内容が分からず、コラムの結論とかけ離れている。タイトルは読者に具体的な情報や内容の予測を与えない。例えば以下の例を検討してみよう。

原題のタイトル	毎日新聞社訳	直訳
生命的三分之一(1)	夜の余暇を有効に	生命の三分の一
一个鸡蛋的家当(1)	拾った卵を女房につぶされた男	卵一つの財産
从三到万(1)	バカのひとつ覚え	三から一万まで
你赞成用笔名吗？(3)	ペンネームの使用、大いに結構	ペンネームの使用に、賛成か
智谋是可靠的吗？(4)	智謀も衆智には勝てぬ	智謀は頼りになれるか
这是不是好现象(4)	×	これは良い現象か
握手与作揖(4)	握手は不潔	握手とお辞儀
生活和幽默(5)	中国人にユーモアがあるか	生活とユーモア
两则外国寓言(5)	ホラの吹き方の大小	二つ外国寓話

例えば「生命的三分之一」を直訳すると「生命の三分の一」となるが、これを見ても書き手が何を伝えたいのか、読み手は全く分からない。それに対し毎日新聞社訳のタイトル「夜の余暇を有効に」を見れば、「なるほど、人生の三分の一という夜の時間を無駄にせず、有効に活用したらどうか」という書き手の意見を予測することができる。中国人がこのタイトルを見ると、「生命の三分の一とは何のことだろう」と思い、つまり内容が予測できず、だからこそ読んでみたいと感じる。そして、コラムを読み終えた後にようやくタイトルの持つ広く深い意味を知ることになる。また「这是不是好现象」（これは良い現象か）だけでは、どんな現象か分からず、文章を読んではじめて、これが「立ち読み」の現象であるということが分かる。中国語のタイトルは、このような印象的な言葉遣いによって読者の注意を引く傾向が明らかである。

5．まとめ

本稿では、日本語と中国語のタイトルの特徴について、「天声人語」と「燕山夜話」という２つの新聞コラムを分析データとして比較対照を行い、その異同を考察した。

まずタイトルの構成について、「天声人語」と「燕山夜話」ともに、名詞句が一番多かった。「天声人語」は７割ほど、「燕山夜話」は６割弱である。また、「天声人語」には命令文が見られないのに対して、「燕山夜話」ではわずかだが見られる。名詞句を使うことで簡潔な話題提示を目指しているのではないだろうか。「燕山夜話」にわずかの命令文が見られたのは、執筆者がこれから書く内容をそのまま提示したうえで、書き手の意見も明確に示していることが考えられる。

次にタイトルの内容面については、「天声人語」が非常に具体的であるのに対して、「燕山夜話」は印象的に読者にアプローチする。「天声人語」のタイトルは、読

み手は執筆者がこれから書く内容をある程度予測し読み進めることができる。一方「燕山夜話」のタイトルは、読者を「何だ」と思わせ興味を引きつけることで、コラムの内容を読ませるという形式を取っている。日本人は新聞のタイトルを通し、ある程度記事の内容を予測でき、もっと知りたい場合はコラムの内容を読み進める。それに対して中国人は、新聞のタイトルを見て面白そうなタイトルに引かれ、コラムの内容を読んでいく。

今回はタイトルの構成と内容を分析したので、今後の課題として、タイトルの表現やレトリックについての質的な分析も進めていきたい。

---

[1] 郭(1995:75)、著者自身による英訳

[2] 拙訳

[3]「天声人語とは、1904（明治37）年、はじめて大阪朝日新聞(当時)紙面に登場して以来、100年以上にわたって長期連載中の名物コラムである。朝日新聞朝刊の１面に掲載されている。さまざまな時事問題をテーマとする簡潔でわかりやすい論評に定評があり、大学や短大などの入学試験にもしばしば題材として採用されている。ラテン語の意味は「民の声は神の声」といったところだろう。一方、「天に声あり、人をして語らしむ」という意味だという解釈もあるが、日本語の「天声人語」の語源は、はっきりしないと言われている。」『天声人語　英文対照　秋』ｉより

[4]「燕山夜話とは、孔子以来の古典や故事などを豊富に引用した現在中国の新聞人、学者による随筆である。北京市党委員会書記で、前『人民日報』編集長の肩書をもつ鄧拓（とうたく）が、夕刊紙『北京晩報』に書き綴ったものである。合計153本で、1961年３月から翌62年９月まで掲載され、のちに北京出版社から単行本として刊行されている。その内容は史実や故事を縦横に駆使して、道徳、教育、文学、美術、演劇、農業、科学技術を論じ、はては犬猫談義にまでその薀蓄を傾けている。」注：燕山とは、北京北西、八達領の向こうに連なる山の名である。毎日新聞社訳･編(1979)『燕山夜話　鄧拓　付・三家村札記』ｉ～ⅱより

[5]「天声人語」は元々見出しが存在しないが、朝日新聞論説委員室が本として編集する段階でタイトルを付けている。

[6] 第１集を(1)、第２集を(2)、第五集まで同様に記す。

[7] 毎日新聞社の訳がないコラムもある。その場合×と記す。

[8] 毎日新聞社の訳と筆者の訳が一致することを示す。

[9] 専門的な学問だけではなく、広い知識をもつ人のことをいう。

[10] 古体の有名な僧侶

[11] 明時代の有名な科学者で、特に農業科学方面で、祖国に巨大な貢献をした。

[12] 明時代の役人

参考文献

馬場博治・植条則夫（1988）『マスコミ文章作法』創元社

メイナード･K･泉子（2004）『談話言語学　日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版，pp. 66-83.

野口崇子（2002）「見出しの文法―解読への手引きと諸問題」『講座日本語教育』38号　早稲田大学日本語研究教育センター

李貞旼（2008）「韓日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照研究」ひつじ書房

郭可（1995）「中英新闻标题语言比较」『上海外国语大学学报』(4)，pp. 75-77.

王占華・一木達彦・苞山武義（2006）『中国語学概論　改訂版』駿河台出版社

黄力游・林翠芳（2007）『天声人语集萃』外语教学与研究出版社

吕叔湘（1980）『现代汉语八百词』商务印书馆

宋文军・姜晚成（1995）『现代日汉大辞典』商务印书馆

鳥井克之（2008）『中国語教学（教育・学習）文法事典』株式会社東方書店

Soler, Viviana（2007）“Writing titles in science: An exploratory study” *English for Specific Purposes,* 26（I）, pp. 90-102.

資料一覧

朝日新聞論説委員室編(2013)『天声人語　英文対照　夏』

朝日新聞論説委員室編(2013)『天声人語　英文対照　秋』

毎日新聞社訳・編（1979）『燕山夜話　鄧拓　付・三家村札記』

马南邨（1979）『燕山夜話　合集』北京出版社

The Characteristics of Titles in Japanese and Chinese Newspaper Columns

Aiting SHAN

This paper will analyze two newspaper columns entitled “Tensei Jingo” and “Enzan Yawa”, aiming to discuss and contrast the characteristics of the titles. With regards to the composition of these titles, noun phrases are present in both “Tensei Jingo” and “Enzan Yawa”. There are a imperative sentences evident in “Enzan Yawa,” which is not the case in “Tensei Jingo”. In terms of the contents of the titles, “Tensei Jingo” is very concrete and specific, whereas “Enzan Yawa” is more impressive and imposing. It is possible that, to some extent, a reader could predict the content of what will follow from just reading the title “Tensei Jingo”. In contrast, the title “Enzan Yawa” attracts interest and draws in a reader by making them question “What (is that about)”?, allowing it’s audience to read on and discover the subject of the column themselves.